

## 大

# 野

#### 大野小学校 学校だより

第18号

令和4年 2月 2日(水)

校長 伊東 敏勝

【教育目標】 ・かしこく ・やさしく ・たくましく

◇ 今年度の重点目標「進んで行動しよう 友だちのよさに学ぼう」 〔笑

〔笑顔あふれる大野小〕



1年で最も寒い季節です。子どもたちは寒さに負けず登校しています。しかし先週はコロナウイルスのオミクロン株の影響で、相馬市もこれまでにない感染状況となり、皆様ご対応にご尽力されたことと思います。特に小学生に感染が広まっており、学校でも感染防止に、より一層努めているところです。保護者の皆様にはいろいるな規制でご協力いただいておりますが、なにとぞご協力をお願いいたします。

### 卒業式が行えるように

コロナ過になり、相馬市の卒業式は、 一昨年は保護者参列なし、昨年は保護者 1名の参列で行いました。来賓や全校児 童参加ではできないにしても、大野祭の 時のように保護者2名の参加で行いたい と願っていおります。そのためにはコロ ナが落ち着くしかありません。特に6年 生は、卒業式が行えることを最上位目標 として、健気に我慢しております。

### ドローンを操縦したよ

1月19日(水)公民館の事業で、6年生は福島ロボットテストフィールド(通称:ロボテスフィールド、RTF)の出前講座を行いました。3,4年生が見学学習で、プログラミング学習を体験したときの担当者様、校長が前任校で地域復興学習でお世話になった福島イノベーショ

ンコースト構想課長様のご来校で、和やかな雰囲気で行われました。イノベーションコースト構想とロボテスフィールドの話を聞いて、福島県が日本の最先端の研究をしていることを知りました。



いよいよ楽しみにしていたドローン操縦体験です。タブレットでドローンを操縦して、目的のところへ着地させました。



次に3つのグループに分かれて、バーをくぐって戻ってくるドローンのリレーをしました。子どもたちは操縦がうまく白熱したドローンレースになりました。

講座終了後、子どもたちが教室に戻ったあと、担任の美紀子先生と校長、教頭でドローンの体験をしました。子どもたちに見られなくてよかったです。

とても良い体験に、お礼の手紙を贈ったところ、担当の方より、福島イノベーションコースト構想とロボテスフィールドを理解したこと、ドローン操縦体験から、ものづくりやロボットに関心を持ってくれたことを大変うれしく思いますという返事もいただきました。

#### 十七字のふれあい

夏休みにとりくんでいただきました「十七字でかなえよう」で一次選考を追加し、 文集に載った方が9組いらっしゃいました。おめでとうございます。

#### 【絆部門】

カブトムシ とったはいいが さわれない 1年 諏訪純大 けっきょくは 父が育てる カブトムシ 父

ごはんまだ むじゃきにせがむ わが息子1年 諏訪純大昼ごはん 母を悩ます 夏休み 母

おとうさん まだまだだっこで あまえたい 2年 佐々木心陽 腰痛を 堪えて感じる この成長 父

ふくしまへ エールをおくる そ父の花 3年 高玉結太 祖父の花 見る孫の顔 誇らしげ 父

じいちゃんの みまいに行くのも ママー人 3年 須藤万棚花 コロナ禍で 父子踏ん張る 母の留守 父

お手伝い せんたくほしで ママ気分 4年 志賀莉桜菜 干し方に 手を出したいが 母がまん 母

どこ行くの 毎日親に 持ちかける 6年 齋藤結菜 どこ行こう 妻と二人で 吟味する 父

#### 【ふるさと部門】



ぼくの町 自然豊かな 海に山 5年 渡邉凜時 海に山 美味しい幸あり わが相馬 母

復興で 笑顔を守る 活動を 6年 鈴木ももか 忘れるな 未だに苦しむ 人びとを ダ

## 濃厚接触者の自宅待機について

土曜日の新聞では、まん延防止措置から、県では濃厚接触者の自宅待機を10日、一方政府では7日にするという2つの記事が掲載され、情報が錯綜し、迷いました。ここで相馬市の文書をもとに整理しますと、「濃厚接触

者の自宅待機 は7日」に 短縮されま した。

Love

しかし、

10日を経過す

るまでは、健康状態 の確認やリスクの高い場所の利用を控える等が書かれてています。

7日の数え方として、陽性者との最終接触日の翌日を第1日目として起算します。例えば2月1日が最終の場合、よく日の2月2日から8日まで自宅待機となり、2月9日より登校可能となります。

また、学校職員はエッセンシャルワーカーに該当し、4日目と5日目に自主検査で陰性ならば、5日で解除が可能です。

